

令和6年度 学校経営の基本方針

佐世保市立春日小学校
校長 日高 智明

学校教育は、社会の要請や子供・保護者・地域の実態を踏まえつつ、良質な教育内容を提供することを使命とします。そして、その営みが、計画的・意図的・継続的・組織的である限り、学校運営の基本は、

『本校の学校教育目標の具現化を意図し、教職員が児童を指導・支援する活動を計画にしたがって、組織的に協働して教育活動を継続的に進めていくこと。

にあります。

学校は、『**子供第一**』であることは、言うまでもありませんが、職員室の雰囲気も大切なものです。教職員が同じ目標に向かって一つになり進んでいくとき、教職員の表情は笑顔になり輝きます。教職員の表情が明るいと、子供も保護者も地域も安心するとともに、学校がさらに活性化し新たなアイデアが生まれます。

その根幹になるのは、私たちの『**和=チームワーク**』です。

そこで、『**和=チームワーク**』を基盤に、

今年度の春日小のキーワードは、『**寄ってたかって**』と考えました。

子供たちの多様性は広がりを見せており、その対応については年々難しくなっていて個人ではなくチームとして対応することの大切さを感じています。チームとして対応するためには、職員間で情報共有を密に行いアイデアを出し合っていくことがまず必要です。

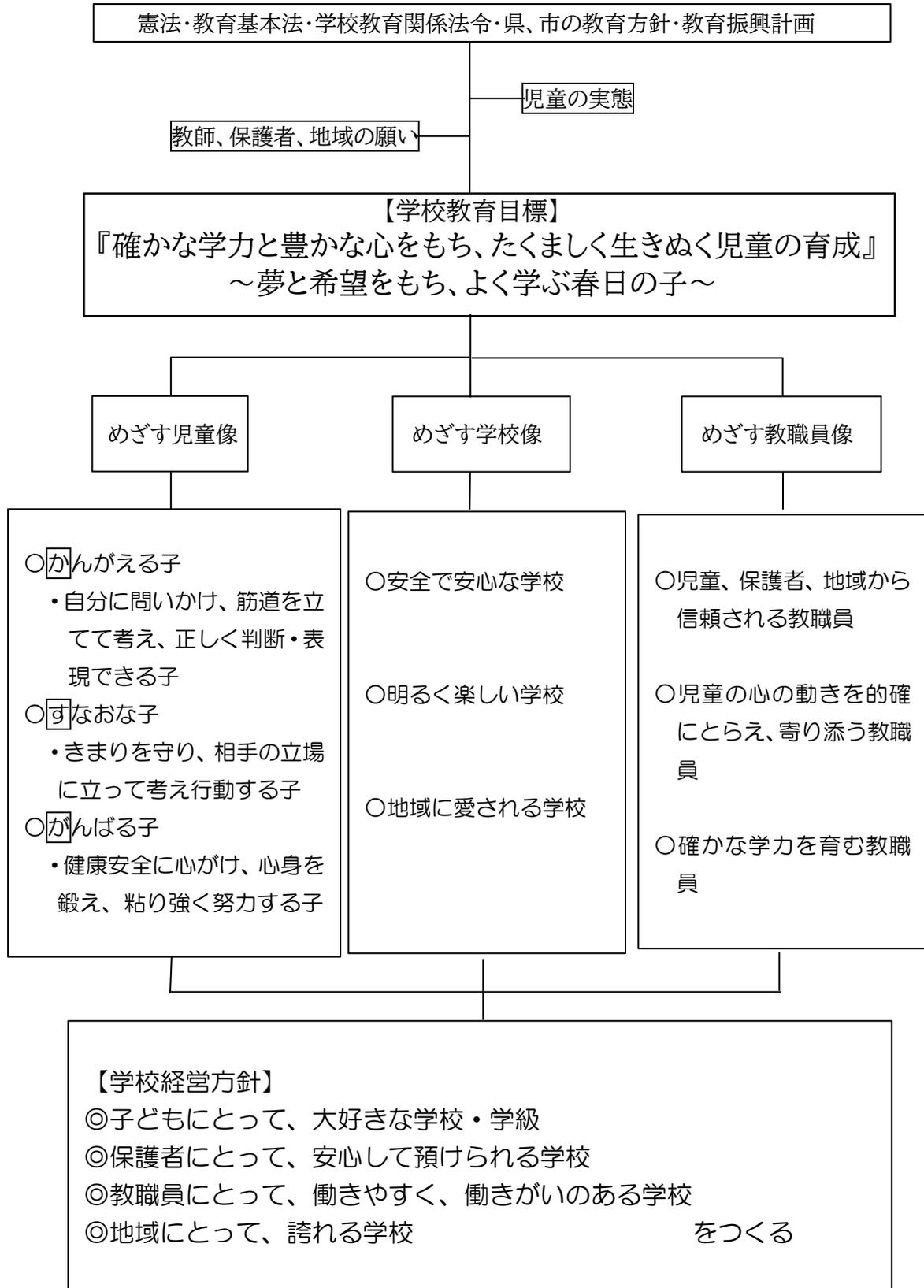
みんなで共に考え、共に動き、共に見直し、また共に考える、まさに「**寄ってたかって**」協育する学校づくりを展開したいと考えています。

そのために

- ① 寄り添い尊重する指導を
- ② 子供の思いや考えを実現する活動を
- ③ 失敗体験・感動体験を
- ④ 家庭・地域との連携で学びの充実を

春日小学校の『協育』を、みんなで『**寄ってたかって**』実践していきましょう。

令和6年度 学校経営方針及び学校教育目標



○ 重点努力事項

- ・令和3年度「次に、学びの充実」
- ・令和4年度「基礎的学力の確実な定着・個別支援体制の強化」
- ・令和5年度「学習の構造化・児童の主体性向上」

令和6年度 『子供が感じて動く活動づくり』 ～特別支援教育の視点を生かして～

- ・「教える」から「気づかせ育てる」授業への転換
- ・落ち着き、安心して学べる環境づくり

◎主体的で協働的な学び「子どもが主役の学び」

「何を育てるか」の意識を明確にもち、子供に何をどのように「感じさせるか」「気づかせるか」を考え、子供たちが「思いや考え」をもって活動できるようにする。「やらされている感」から「やっている感」への転換で、子供たちの自主性を引き出していく。

○学びの自力づくり

- ・子供が進める授業づくり
- ・ICT 活用による活動の多様化
- ・体験活動・協働活動から広げる学びづくり
- ・対話で広げ深める授業づくり

○学びの基礎づくり

- ・よい行動の強化
- ・基本的な生活習慣の徹底（進んであいさつ・静かな廊下歩行）
- ・心を耕す読書活動
- ・自主学習への取組

○学びの場づくり

- ・家庭・地域と連携した体験活動づくり
- ・学習環境整美（言葉・落ち着き・清掃・物の整理）
- ・失敗から学ぶよさを共有する集団づくり

児童の意識変容

- ① 自分の思いや考えから、どんな活動に取り組むかを決めている。
- ② 地域や社会（※学級や学年）をよくするために、自分にできることを考えている。
- ③ 困りごとがある時、先生や学校の大人にいつでも相談できる。